

9 月度 例会 山行報告書		報告者	津田 廣一	参加 メンバー	CL; 岸上 薫 竹内 幹雄 津田 廣一(記)
		報告日	10/13		
山 域	北 関 東	山行日	15 年 9 月 5 日(土) ~6 日(日)		
山 名	皇海山				
山行目的	親睦・登れなかった山に登る				

配布先
集会:12
山行: 1
リーダー
原紙: 集
会担当者

ルート図 (地図を見て正確に)



2.5 万分の 1 地図: 皇海山

9/5 晴れ後曇り
05:00 起床
05:30 銀山平発
06:35 林道途中
(一の鳥居手前) 1 本(10分)
07:50 庚申山荘(荷物デポ)
08:10 庚申山荘発
09:10 庚申山頂上 1 本(10分)
10:30 薬師岳 1 本(10分)
11:30 鋸山 1 本(10分)
13:00 皇海山山頂(20分)
14:20 鋸山 1 本(10分)
15:10 六林班峠(15分)
17:50 庚申山荘

9/6 曇り
05:30 起床
07:00 庚申山荘発
08:40 銀山平着



〈山行報告〉19 時に、知立で竹内さんと合流。運転は竹内さんへ任せ、助手席から話しかけるも、徹夜気味の為、ついつい途切れてしまう。2 時過ぎに到着し、爆睡へ。目覚めて岸上君と合流。朝飯のお握りを頼張り、出発。雑談しつつ、3 人 3 様のペースで林道歩き。1h 程歩いて 1 本。すぐ、一の鳥居に達して登山道へ。ここから、私、竹内さん、岸上君の順で進む。睡眠不足の筈だが、快調。整備された道を 30 分も歩かず鏡岩へ、更に 15 分程で仁王門、そして庚申山荘へ到着。夜の食料・シュラフ等をデポし、荷を軽くする。先ず、庚申山を目指すが、岩場の急登へ様変わり。汗も吹き出し、息も喘ぎだす。空模様も怪しくなってくる。1h ぐらいの急登を過ぎ、緩やかになったところで庚申山頂上へ。展望地まで行っても周りは見えず。道が笹に覆われ、分かりづらくなってくる。薄い踏み跡と赤テープを辿って進むも、背丈以上の笹に視界が遮られ、藪漕ぎの箇所さえ出てくる。駒掛山のピークを見つけられないまま、尾根道から外れている。強引に藪漕ぎして尾根へ登り直し、登山道発見。尾根を外さない様に慎重に進み、薬師岳へ。一番の難所を前に、腹ごしらえ。はしごや鎖の岩場のアップダウンになる。薬師岳で追抜いて行ったおじさんが躊躇していた。スッポリと切れ落ちた岩壁だ。“ここで落ちたら、助からんな〜” 1 人ずつ、鎖を頼りに懸垂下降の要領を思いだしながら降りる。更に進むと、もっとやっかいな岩壁だ。鎖をしっかりと持って、右側を降り、左へ少しトラバースしてオーバーハングを越える。竹内さん、岸上へ下から、大声でアドバイス、3 人無事通過。今度は、ガレ場を慎重に攀じり、左へトラバース、登山道へ這い上がる。

鋸山頂上へ着いて一安心。不動沢のコルへ下り、登り返し皇海山頂上へ。万歳！危険を避け、六林班峠を通る南側のコースを選択、早々に頂上を後にする。女山、六林班峠までは順調。しかし、ここから下りる道が見当たらない。踏み跡らしき所から方向を定め強引に入り道を探すも遭遇せず、やむなく藪漕ぎして登り返し、道発見。30 分程はロスか？コンパス・赤テープと GPS を頼りに休憩なしで歩き歩いて 18 時前に山荘へ到着。乾杯！ビールが旨かつ



確認
(リーダー)
岸上
15.9.26
作成
(報告者)
津田
15.9.20

〈リーダー所見〉 林道が悪いため、最短の不動沢コースではなく、時間が掛かる銀山平からのコースを選択。難所もあり、歩きごたえがあつて良かった。不動沢コースの方に話を聞くと、自動車が 3 台もパンクしていて、登山口に着くまでが大変との事。津田さん、竹内さん共に、約 12 時間の山行をしっかりと歩かれ、底力を感じた。あと、登山道を外れた時の判断は、現状を地図・コンパス・GPS をフルに活用して把握、戻る判断が大切。

皇海山登頂 万歳！
林道崩壊で、登山口へ辿り着けなかった山